

筆者は現在、「一般社団法人 全日本建設技術協会（全建）」の会長を務めている。先の大戦後すぐに全国の地方公共団体の技術系職員が、事業分野でも戦前には事務系職員に幹部を独占されていた状況を改善しようと立ち上がった流れが今日の協会となっている。

現在は、技術力の向上や技術系職員同士の交流、災害対応経験の共有などを通じて、国や地方、旧公団などの技術職員の技術力の向上に努めている。

『ACE』をお読みの建設産業界の皆様も、会員との技術的な交流を図って技術的な刺激を交換していただき、その結果、より品質の高いインフラが効率的に人々に提供されることを期待している。

政府が国債でトンネルを建設する

さて、今回は、その全建で紹介した論文に修正を加えて説明したい。「国債の発行は後世の負担なのか」ということを、建設国債で公共事業

ているが、国債の長期金利は一貫して下がり続け世界でも最も低い水準となっているのは、この説明の正しさを証明している。

政府に建設国債を償還する責任が生じてはいるが、トンネル建設が雇用や資材の需要を生んでデフレの脱却に寄与した。また、新しいトンネルが未来にわたって末永く経済の効率性を向上させ続け、これによって日本経済は成長して国民が豊かになるのである。

なお、この建設国債は永久に借り換えを行ってもなんの問題もなく、現に国債償還を予算に計上している国は世界の主要な国のなかで日本だけなのである。また、現に日本も国債の借り換えをやってきているのである。

企業が

銀行から金を借りる

以上のことは、個人や企業が銀行からお金を借りる場合に似ている。ニッポン放送の「大石久和のラジオ国土学入門」でも説明したが、X社

国債が将来へのつけ回しでない証明

国土学アナリスト 大石 久和 Hisakazu Ohishi

をやることを想定して具体的に解説してみよう（評論家・中野剛志氏の論考を参考にした）。

①国土交通省（政府）は工費一〇〇億円のトンネルの建設を企画し、その資金を建設国債で調達することにした。そしてA銀行がその国債を購入した（実際には、個別の事業を実施するたびに国債を発行してはいない）。

②このことは実際には何が行われたかという点、A銀行が日本銀行（日銀）に保有している日銀当座預金一〇〇億円分が政府の日銀当座預金に振り替わったのである。ここではA銀行が自らの預金をかき集めて国債を購入したのではないことに留意しておきたい。

③その裏付けを得て政府は甲建設にトンネル工事を発注した。トンネルが完成したので政府は一〇〇億円の政府小切手を甲建設に交付した。甲建設は自社の取引銀行であるB銀行に政府小切手を持ち込み、政府からの代金の取り立てを依頼した。

④政府小切手を得たB銀行は甲建

設の口座に一〇〇億円と記帳する（この瞬間に現金一〇〇億円が生まれている）とともに、一〇〇億円を政府から取り立てるよう日銀に依頼した。すると日銀は政府の日銀当座預金から一〇〇億円をB銀行の日銀当座預金に振り替えた。

ここで注意すべきことは、先にA銀行の日銀当座預金が政府の日銀当座預金に振り替えられたが、今度はB銀行の日銀当座預金に同じ金額が戻ったことだ。国債を発行して銀行がそれを購入することで財政支出をしても銀行全体の日銀当座預金合計は変化しないのである。

⑤以上の説明で明らかのように、国債を発行したことによって「社会に流通する資金の量をまったく減らしておらず、むしろ増やしていること」に注意しなければならない。したがって、国債発行によって金利が上昇しないのは当然のことなのだ。

現に長年にわたる国債発行により残高が一、〇〇〇兆円ほどになっ

が銀行からお金を借りて新しい事業をやるとしよう。X社がお金を借りることができるのは、銀行がこの会社を信用している（返済能力を含め）からである。

もし信用できるとなると、銀行はX社の口座に所要の金額を書き込んで貸し付けが完了する。多くの人が誤解しているのだが、銀行の預金者のお金をかき集めてX社に渡しているのではない。銀行は預金者のお金に関係なく、こうした信用による資金供給ができる存在なのである。

イングランド銀行はこれを「万年筆マネー」と呼んでいるが、今なら「キーボードマネー」と言うところだ。つまり、X社の信用が新たにお金を生み出したのである。銀行の持つ特別な機能がこうした信用創造機能なのである。

日銀は、最近の国会答弁で次のような見解を明らかにしている。「国債は銀行が保有する分については、信用創造を通じて預金を増加させる」（二〇一九・五・二十三 参議院財政金融委員会・雨宮正佳日銀副総裁答弁）

メディアはこれを理解できないのか、十分な形で主権者に知らせようとしていないことが大問題なのだ。むしろ、誤った認識をすり込むのに熱心と言わざるを得ない。「国債とは何？」とのコラムを載せた読売新聞は、「国の借金である」と書く始末で、「政府の債務で国民の債権である」との正しい国債の姿を説明できないでいる。

むしろYahoo!の用語説明コラムのベストアンサーの方が正確で、「金を借りているのは日本政府で日本国ではない」「日本政府は借金を返す必要があるが、日銀が国債を多く保有しているので『政府が政府に返済することになる』、政府は実質的に返済を行わない」「寿命のない政府は半永久的に借り換えを繰り返すことができる」などと、実に正確な説明をしている。

読者諸氏には、防災インフラ不足が毎年のように尊い人命を奪っているいま、自信を持ってインフラ整備費の増大を要求し、その事業促進に邁進してくださるようお願いする次第である。